

審議会等の会議結果報告書

課所名

水道局営業課

会議名 令和3年度 第2回 諏訪市公営企業運営審議会

開催日時 令和3年 12月 10日(金) 午後2時00分より

出席者 <委員> (敬称略)
藤森 貫治(会長)、渋江 利明(副会長)、有賀 秀子、辰野 博之、松木 義文
守屋 照代、吉江 徳男、吉澤 敏子
<諏訪市(事務局)>
金子 ゆかり(市長)、茅野 徳雄(水道局長)、
後藤 浩美(営業課長)、山寺 弘文(施設課長)、
成田 大悟(営業課庶務係長)、後藤 準市(営業課料金係長)、
乙黒 勝美(施設課上水道係長)、矢崎 泰宏(施設課温泉係長)、
蟹江 利成(施設課下水道係長)、武居 正剛(営業課庶務係主査)

資料 諏訪市水道事業ビジョン ビジョンと経営戦略 点検・評価・見直しについて(案)

協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

1 開会

2 委嘱状交付

3 市長あいさつ

4 自己紹介

5 正副会長選出

委員改選により、諏訪市公営企業運営審議会条例(平成 29 年諏訪市条例第 19 号)第5条に基づき、互選を行った結果、藤森委員を会長に、渋江委員を副会長に選任した。

6 正副会長あいさつ

7 報告

・ 水道ビジョンの進捗管理について

《質疑等》

委員： クリプト対策について。以前足倉配水池に導入した設備は、紫外線処理施設と認識しているが、今回膜ろ化施設とした理由は。

事務局： 足倉配水池のような大規模配水池においては、膜ろ化施設よりも紫外線処理施設のほうが効率が良い。しかしながら、小規模施設については、費用対効果の観点から、膜ろ過施設を導入する事例が多い。

委員： 料金回収率が令和2年に下がっているのは、新型コロナウイルス感染症の影響が大きいのか。令和3年度はコロナ前に戻るのか。

事務局： 料金回収率が下がっているのは、新型コロナウイルス感染症の影響を少なからず受けていると考えている。また、令和3年度中の回復の見込みについては、決算を打つまで何とも言えないが、令和2年度と令和3年度を比べると、若干調定額が増となっている月がある。しかしながら、このままのペースでは、コロナ前までに回復するには到底及ばない。

委員： 有収率について。有収率が83%とすると、残りの17%は損していることになっている。この金額がどのくらいになるのか算出しているか。

事務局： 現状把握していない。当市の料金体系は、用途別を採用しているため、損失を正確に出すというのは、難しいと考えているところ。

また、有収率が年々向上しているが、管路の更新のみならず、市内各所で漏水調査を行っている。その効果も有収率の向上につながっていると考えるところ。

8 その他

委員： 8月の大雨の対応について。一部の地域で、トイレが使えなくなるなどの状況が発生し、大混乱した。復旧がどのくらいになるのか、広報車等で周知することはできないのか。

事務局： 8月の大雨の際は、市民の皆様にご迷惑をおかけしてしまい、申し訳ございませんでした。市として県の流域下水道事務所と随時連絡を取っていたが、想像以上の処理水が流れてきたことにより、復旧時刻等の予想はできなかった。

処理水が増えた理由は、雨水が下水道に流入した可能性が高いと考えている。市と県では、現在下水道への雨水侵入について調査等するため動き始めている。

委員： 行政防災無線で、節水のお願いをしていたにも関わらず、水を使っている人が多くいたと思う。異常気象が多く、今後も同じようなことが発生すると思う。ぜひ、市民の人たちに注意喚起を行う方法を検討してほしい。

委員： 市が節水を周知した時点では、既に下水の流れが悪くなっていた。広報するのが遅すぎたのでは。

事務局： 今回の事例は、大量の下水が一気に流入し、クリーンレイク諏訪の処理能力が超えたため発生した。県と協議を進める中で、改善策などを検討していきたい。

9 閉会